

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000043		
法人名	医療法人寿光会		
事業所名	グループホーム上豊田(太陽)		
所在地	愛知県豊田市若草町1-7-21		
自己評価作成日	令和3年12月7日	評価結果市町村受理日	令和4年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	令和3年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム上豊田の理念でもある(虹色カラー)を大切に、入居者1人1人のニーズにあう支援を心がけ、日常生活が安定して遅れるように支援に取り組んでいます。又職員が得意分野を活かし職場でのやりがいをかかじてもらい入居者様との信頼関係作りにより約立っています。尊厳を重視しそれぞれの入居者様のニーズに合わせた支援を行う。その中でも受容、共感、傾聴を大切にし心に寄り添う介護をしています。地域の方との交流や地域でのお役に立てる事を実施、計画をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍の為地域行事、ボランティアの受け入れの中止、外出制限されるなかホームではホームの理念「虹色カラー」を念頭において利用者一人ひとりの生活歴を把握し利用者のやりたい事を共有し、個別ケアとして趣味の縫物、編み物、テレビ観戦等叶えてあげられるように努めている。又個別機能訓練では毎日廊下を歩いたり、ボール投げでは自由に自分の意思で参加する利用者もいて出来る事が新しい発見に繋がっている。ホーム中庭でお茶を飲みながらの雑談、日光浴、イベントを行う等毎回職員の意欲ある頑張りが利用者のあふれる笑顔に繋がっているようである。訪問日もフロアはクリスマスソングが流れ利用者職員との関係が温かく感じられた。今後コロナ感染者が落ち着いた際は外出、外食のレク、ボランティアの受け入れ等徐々に再開し地域との交流が再び図られるようにと職員は

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は折に触れ再確認し、職員の意見を取り入れ、実施状況の把握に努めている。	ホーム独自の「虹色カラー」の基本理念は全体会議や必要に応じた際に話し合い内容を確認し共有している。日々の生活が利用者一人ひとりの特徴や長所が活かされるような支援の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	交流の機会を増やすように努めている。	町内会に加入し区長に寄り自治区の案内が郵送され、地域の情報が得られている。地域住民とは顔を合わせた際挨拶を交わしたり、ホームの駐車場を活用して貰っている。コロナ禍の為外部との交流は難しいが、少しずつ再開に向け準備している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設開放に努めて地域の方の相談窓口作った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター、民生委員さんには、地域への相互発信の場となり、ご家族様からも直接意見を頂きサービス向上に直結している。	コロナ禍の為運営推進会議が開催出来ず出席者には電話連絡後ホームの行事や活動等まとめた報告書をFAX送信している。年明けには通常の運営推進会議を予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村開催の説明会や研修に積極的に参加するように心がけている。	市の介護保険とは電話連絡や出向く際にホームの状況を説明し協力関係を築くように努めている。コロナ禍の為介護相談員の受け入れは中止となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束となる行為は職員全体が熟知するよう研修等で行い身体拘束せずに安全に暮らせるよう努めている。	年に何回か身体拘束の研修は行われている。又職員はスピーチロックについても理解しており申し送りや会議で話し合っている。日々のケアのなかで気になることが有れば管理者はその場で指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員で事業所内外での虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について職員は知識を深め、必要性がある入居者様はご家族様と制度の活用を相談等している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	しっかり説明等行い、理解を得た上で、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をし、運営推進会議の開催、相談員様の来所により反映をしている。	利用者からは日々の会話のなかで意見、要望を聞き出している。家族からは電話や来所の際にコミュニケーションを取りながら聞いて、ホームで撮った写真が欲しい家族にはデーターを移行する等職員間で共有し運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に一回職員会議を開催し自由に議案を出してもらい、職員で話合っ反映している。	三者面談や一カ月に一回の会議の場以外に日頃から職員は意見、要望があれば出せる環境となっている。表の作成の見直しや掃除分担等簡単な要望には早急に対応され運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働条件は個別に配慮している。職場環境には特に配慮し、ストレスの軽減に努めている。個々の向上達成を評価し給与に反映されるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や内部研修に参加してもらい現場にフィードバックしてもらうように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や渉外活動により交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談時や入居時、ご本人様、ご家族様との面談にて情報収集、傾聴にて信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様、ご家族様双方の要望を聞き信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様双方の要望を聞くように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援に努め、お話し過ぎない様に出来る事は一緒に行い、入居者様と職員が助けあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日常生活のご報告をし、ご本人が直接家族に伝えにくい事は職員が代わって伝えることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人が訪ねやすい環境作り、電話対応の支援に努めている。	11月末から家族、親族のみ廊下のソファで面会が出来ている。はがき、年賀状を書いたり家族の協力の下美容院、自宅、法事、外食等馴染みの関係の継続に努めている。外出レクとして春に花見や公園に出掛けたり、病院受診の際車窓からの景色を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴で会話に入れない方、孤立している方を皆の輪の中に入れるように職員が把握し関わりを持てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談、支援体制は構築している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活において、可能な限り個々の希望に努めている。	理念の一人ひとりのニーズにあわせた支援をベースに、話しかけ会話につなげ笑顔を引き出すことで、利用者それぞれの思い、希望、好き、楽しみをくみ上げ、職員間で共有し、プランにも入れ生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に生活歴を把握し会話の中で情報を得たりして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本にの現状把握に常に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングし現状に即した介護計画を作成している。	6か月ごとの見直しではあるが、状態の変化がみられると都度職員間で話し合い、家族にも伝えるようにしている。その上でプランの変更をしている。例えば、歩行に不安が見られるようになり、杖を歩行器にかえたほうがいいのか、と事業所側が感じた段階で家族に伝え、理解を得てプラン変更をかけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の経過記録の活用により、情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて可能な限り柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め支援できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の協力を得ながら受診出来るように努めている。月2回の訪問診療を受けている。	事業所の母体である寿光会病院を協力医としており、月に二度の往診がある。担当医は利用者の様子に常に目を配り、薬の適切な使用の指示、他の病院との連携を図ってくれている。他科の受診には家族も働いてくれる。歯科についてはコロナ禍であり、職員の支援で受診するようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院や医療連携看護師に相談報告し適切な指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院、退院時には双方情報交換している。又、退院時患者様の入居相談も受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り方針を定め医療連携の体制をいっている。	看取りの方針説明と意思確認は入居の際にしている。事業所では医療措置はとれないので、家族や本人の意向と医師の指示にあわせ、できる範囲で終末期をすごせるよう支援しているが、事業所での看取りはない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的なAEDの講習を行い実践力を見に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼夜想定での避難訓練を行っている。	年に二度、昼夜想定で避難訓練を行っており、火元の場所にあわせどこにどう逃げるかシミュレーションを行っている。初期消火の対応についても確認している。備蓄は最低限用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、個々に適した対応を行っている。	理念と管理者の指導のもとで、自分が利用者の立場にたってみてこれは嫌だなど思うことをやらない、ということを中心に、居室やトイレのドアは閉める、ノックする、配慮のある声掛けをする、など接遇に気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の話を傾聴したり問いかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿った支援が出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、髭剃りや整髪をして頂いている。化粧品の購入の手伝いなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には食の準備や片付け等を手伝って頂いている。	材料の宅配を利用しているが、利用者の好みや希望も尊重し、嫌いな物は変更したり、食事レク、おやつレク、行事食などで食事を楽しんでもらっている。家庭菜園で採れる野菜も活用している。利用者は洗い物や材料を混ぜるといった手伝いをしてくれる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表に記入し状況把握に努め、個々の好みに応じた捕食、補水を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食の口腔ケアの声掛けを行い不可能な方には職員が介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。紙パンツ、パットの使用も尿量によって使い分けしている。	排泄チェック表も活用し、個々のパターンやその状態にあわせた誘導をしている。状態にあわせ、失禁がみられるようになった場合などはパットも併用し、改善すれば利用なしにもどすなど、利用者にとってすしやすい方法を考え支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の少ない方には声掛け、多めに水分補給補給にて個々の状態に合わせた調整、ケアを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	必要最低限の介助、見守りを行いゆっくりと入浴して頂けるように努めている。	週に二回を基本としているが、希望すれば回数を増やすことも、入浴時間を長くすることもできる。季節の変わり湯や入浴剤も取り入れ、気持ちよく入ってもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の室温や寝具の調整を行い、ゆっくりと眠れる環境を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個々にファイルし重要な事は申し送りを行い、職員に周知してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の経験、趣味を活かし活動できるように支援している。個々に役割を持ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の散歩、外出レク、花見等行っている。が、コロナ禍では、なかなか外出出来る機会が減っている。	コロナ禍で現在はまだ制限を設けているが、それでも敷地内駐車場や中庭を活用し、散歩をしている。またドライブがてら車窓から桜や紅葉を眺めてもらい季節の移ろいを感じてもらっている。緊急事態宣言もあけコロナ禍も落ち着き気候もよくなったら散歩や喫茶外出なども徐々に再開する予定。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理希望入居者様には自己管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者のみ、実践している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の清潔保持に努め、毎月のカレンダー作り、季節の花や野菜を入居者様と育てている。	中庭という特別な共用空間があり、ベンチで日向ぼっこやプランターで植物を育てたり、体操したりお茶を楽しんだりできている。また広くぐりと回る廊下には利用者の製作した折紙や絵、写真などが飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の好きな所に座り、テレビをみたり、ソファに座り、入居者様同士で会話をされたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前まで使用されていた、家具や食器を持って来て頂き使用されている。	椅子やたんす、位牌、遺影、写真など、使い慣れたものや大切な家族の思い出を持ち込んで、それぞれが使い勝手がよいよう配置した居室となっており、できる人は掃除もやっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物干しや、たたみ、食事の準備、草取り等、家と変わらない生活を送って頂いている。		